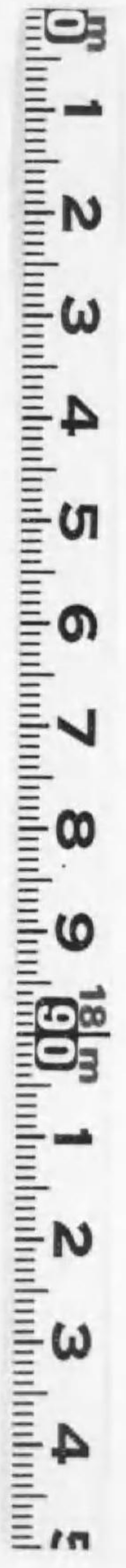


特 116
41

山本與三八著

實	驗
桑園	蠶兒
栽培法	飼育法



始



今回余か桑園栽培法春夏秋蚕兒飼育法の要旨を此際本誌に作りたる原因は左
 如し大正三年十一月我が縣に於ては吾々を一日も早く他に劣らぬ養蚕家に致
 たき御いたわりの御心ありて世界の手本を見せんが爲め大金をついやして大日
 本蚕絲會の品評會を吾等郡内に御開き被下本國蚕絲業會の大先生を御招待に相
 成り御懇特なる御講話を御聞せ被下尙又大正四年三月一日二日の兩日間本縣
 安東技師殿の御懇特なる御講話を御聞かせに預り候處養蚕家の覺醒すべき非常
 に有益なる御説明にして一日も是れを聞ながしに致しては縣郡兩三名の御先生
 様に申譯無之により今回の品評會及講話を記念として桑園相設度候得共小生區
 内地は製煉煙害の爲め亞硫酸瓦斯に障害されて目的通りの記念桑園を設る事相
 叶さるにより右記念の爲め余が是迄蠶兒飼育に附ての要旨を本誌に印刷一養蠶
 家諸氏の御參考に供せんごす

大正
4. 4. 10
内交

目次

第一章

桑園栽培法は如何すべき乎

蠶種製造家が苦む原因は如何なる乎

養蠶家は何に故に失敗する乎

製糸家は何に故に心配する乎

右三事業者の不足が桑に有る物とすれば如何にして宜し乎

桑園を改良せずに蠶飼育せし爲め一万戸に對する一ケ年の損害

町家の者養蠶を成すには如何がすべき乎

青年諸君は如何なる心を御持になりて宜し乎

第二章

蠶種保護法及洗滌法並貯藏法

蠶飼育準備の標準表

全芽育の養蠶法

飼育中の温度火の力の効力

軟化病の原因は如何なる乎

上簇法上簇後の注意

以上

第一章 桑園栽培法

栽培法は色々あれ共地味によりて一定ならず春蚕用雪の積りし處と積らざる所に有りては差別あり御當地のごとき雪の積る所に有ては根柢より中柢の方がよろし中柢にするごときに植方によりてみきかかれて中柢だいができない故植込前年の秋に畑の土を耕して地質を見上土地ならば畦巾五尺中等以下の地味ならば畦巾四尺どしいづれも南北に畦取るべし然して其の掘上たる窪みろし草及わら等を入れて又右のもりたる土を其うづみ物の上へ盛上げ其二度めのくぼみへ澤山の肥料を秋氣の内にはごこしかくべし然してよく年のひが年後に其くぼみの土をやわらげて苗木を一尺五寸ないし二尺の者に切て株間を二尺五寸ごときに植附尙植付當時は發

芽が一寸以上のびる迄は火やけせぬ様又は湿かさぬ様に注意し蚕兒の一齡と同様に取扱べし然して發芽が出たらば株より八寸以上尺三寸迄の分に於て芽二本立つるべし其他上下は芽をかき取るがよい然して芽葉の色をみてうす肥料をほごすべし三四寸のび出したる時草を取て太陽にて土のあたゝまる様に畦間をあさうちになすべし何程畦間が廣く共つくりはする事相ならん何ならばみ木がやわらかく出來る恐れ有り然して植附の年は六月卅日後には肥料を興へざる方が宜しい遅肥料はみ木がやわらくなるにより持込まぬ方よし畑には一ケ年中草をはやさぬ様に十一月に至り肥料をほごこす方よろし然して秋はゆい立て右桑葉をよく年の春三眠迄給與して四令時代に前年に芽立た物を一尺長に

切り取り其部へあくるきが出るにより、よく日、よく
される、又ものにて前年芽立た部に向て七八分のゆど
り、を、つけて、天に向て駒爪なりに切取るべし切取の
際はすいあげる物無きにより、わずかの肥料を、ほぞ
とすべし發芽吹きやぶる時き、急にすい上げさせんが
爲め其頃を見斗て澤山の肥料をあたうべし右様に致せ
ば植桑は、しせいたしく相成りて、他にをとらぬ桑
園と相成り尚又二ケ年目よりの立目は木の成績により
て一定ならず然れ共じやま物はかき取て夏蚕用にもち
い成績良き物を立つべし雪の降積もらざる地所に有り
ては春蚕用にも五六寸の者に切て植込がよろし此壹
ケ年生のみきのかれるのは何に等の爲めなるかと云に
御當地は濕氣の多き地にもかゝわらず雪が降積りしに

よりよく年の春に至りて雪はきゑす土はひがんどみて
歸る氣をもようしてはたらきにかゝる故地いきの蒸發
する、よちが無きにより土と雪の間をもも致し居し
によりやく一年生わうす皮のものなるにより其地熱に
をかされて皮がみ木よりわかれ其の爲みきが枯れて何
程桑を植る共改良桑にては春蚕用の台ができなかつた
然れ共川端の砂地及乾燥地に栽培せし者は春蚕中刈台
出來し處も有る濕氣地に有りては春蚕用の見事なる桑
園は見當らざるにより余は拾二通りの桑を以てみきの
かれる点に付てためしを致したるにより前述の植込及
耕作にすれば春蚕用の桑園を設るには心配なきもの
なり

右栽培法の桑園一反歩より春秋の二期に上る桑葉の量

凡そ左 如し

壹反歩に附九百本壹坪に付三本宛

桑葉量

- 二ケ年目 壹百貫目
- 三ケ年目 百七十貫目
- 四ケ年目 三百貫目以上
- 五ケ年目 五百四十貫目

計 五ケ年間の調査以後はます斗り

夏秋蚕用根蒔仕立速成の法

畦巾四尺株間八九寸一反歩に三千本五六寸に切て植込
べし耕作は春蚕と同じ澤山肥料を含みし土に植込が宜
し肥料含まざる土に植ればちゝなき者に赤子を預けた
ると同じにより病にかさる、よく此程を、さつしら

れて御注意有りたし尙發芽が出れば成績良き物を二本
立他はかきとるがよろし植付とじは蚕兒の一令と同じ
にて温度及食に下足しやすき物故一ケ月間斗は濕さぬ
様天日にやけぬ様大切に御保護せらるべし是迄の様に
遠方より送りたる苗木を家ぎはに其まゝ置きて後に至
りて植る有り様は木にねを附る目的とわ申されぬ肥
料ふくまざる、かたまり土をねの入るだけの穴をほり
て其穴へねをまげて入れると同じに右ほりだした、か
たまり土を、かけて足を以てふみ込みし爲め天氣宜敷
共土のあたゝまる事なし肥料ふくまざる、かたき處へ、
をい込て足を以てふみつけたる爲め鹽繩を以てからげ
たる様な者にて植附し苗木は一ケ年中畑野になげき居
るそれもしらずに植附者は發芽の出ぶりも見ずに肥料

をあたうる爲め食すぎにて出かけし發芽もついにまい
込事多し是を見て苗元がわるいと申すやからが多くあ
るが是れ大なる間違なり右の次第により苗木植附者は
此程を察せられて勉強致さなくては苗木の時代よりも
成長がにぶくては。ちよご一ヶ年成長をさまたげる事
となるにより御注意有りたし余は今より九ヶ年前に自
宅に於て養蚕家の見本品作り度と思ひ桑苗一万八千本
植込二ヶ年目に於て秋蚕にてもやく三十貫斗取入たる
により明年明後年に於ては春夏秋の三期にては相當の
養蚕家と相成り我が指導せし者は、各區へ無給で巡廻
致さす事にすれば一時に改良が出来る事故左様に致度
と思て居つた其頃は郡内一ばんに、姫蚕多く流行する
時代にて繭價額か他縣及他郡より一圓以上もさが有り

やむをえず北海道に至りて地所拜見致し候得共北海道
にては何の國にても寒さ厳し爲め三期の養蚕を爲す事
相叶はざるにより、當所へ歸りて養蚕巡廻教師致し居
候處とても話にては發たつがにぶく有之しにより郡町
外に於て坪六合の年貢を以て土地二反歩借り受右見本
の爲め明治四拾五年度春桑園相設け候處一昨今桑葉七
百貫昨年は一千貫目夏秋の二期に取上げ本年は春秋の
二期に千四百貫目上る豫定なるが仮りに一千二百貫目
と見ても芽葉共に一貫目代拾五錢にして合計代金百八
拾圓と云ふ大金になるわけだ今此千二百貫目の桑にて
蚕を飼ば繭が八拾貫目出るにより此代一貫目四圓と見
ても參百貳拾圓の大金となるにより農家諸君は此程を

たるにより余が作りし糸量拾三分の繭賣るのに他に作
りし繭より一貫目に付壹圓七拾錢もさが有りし爲め商
人が見込附ずして唯良き繭なるにより賣てもらいたい
と申すのみにより二日目の午後に至りて商人繭を一舛
宛つ糸を取て見て被下と申し渡しましたところ。よ
く日余の申したる通り糸量拾三分有りしにより御送被
下と報知有りたるにより三日後に賣買致した様な有様
で有りた余は其時にかんがゑ附ましたのは今後製糸家
を設けなくては繭賣るのに頭をつかいすぎて改良發達
は唯口で斗申のみにて六つか敷と思ひしにより、信州
諏訪郡製糸事業拜見致し度と思ひ旅行致し居候處豈は
からんや余が桑園のふきんに於て鑛石製煉する事と相
成り候爲め余が作りし桑園は全めつと相成りしにより

察しられて野畑には前述の式にて桑を植てもらいたい
諸君今茲で水田を二反歩作る者とすれば一反歩に八俵
上る田としても十六俵の米一俵代六圓と見て計九拾六
圓なるにより桑賣る代半額にて一ヶ年中のなんを受ね
ばならん桑にすれば畑野で事たりる事故畑にハイキン
の附し木及こけ。かゝれた。の有りし桑木は改植するか
又は手入をして發芽を出さすか何ぞかして縣の旨趣に
そひかざる様につとめて願いたい前述の通り右桑貫數
の上る事は間違無之により土地澤山御所有の御方様は
所有不足者に御貸に相成りて少田より澤山の品が上る
様に御注意有りたし余は昨年西谷は笹又地所の山林
に於て苗木一万四千本の桑園を作りしが是にして非

常なる利益を取上る心組なるが土地御所有の御方様に
有りては上畑壹百歩に付漆木拾本茶株二拾株つまらん
桑木が拾二三本其下に雜穀を、まばらに。まきちらし
置き草取の有様は開墾する様な物なるにより人夫賃と
なるが爲め地所がわるくて利をさ上る事相叶わざる様
に思ひなされるは大なる間違なり右様のやり方にして
は年々衰退し後には彼の寒國の北海道をこのまねばな
らん事故今こゝて三反歩の桑園を設ければ壹ケ年に壹
家内の費用だけの金銭を取上る事相叶ふにより此程を
察しられて大家者は三反歩の桑園御作りが願いたい大
家者は寒國北海道へ引越なさざる共其區より貧民が引
越しすれば大家者が引越致したるも同様なり何になら

叶ふ今こゝで一反歩に米七俵上る田としても九反歩以
上作りたのと同様の意味なるにより畑地御所有の御方
様は壹ケ年も早く桑園栽植の程を願ふ

蚕種製造家が苦しむ原因は如何なる乎

蚕種製造者が良き種を製造し是を養蚕家へ送り日夜わ
すれる、ひまなく良き成績を上げさせ度と思ひわすか
二三枚買入者の方へも秋春二期共多忙中いごわす掛廻
り色々飼育法の話をして非なる苦心を被成共上結果
を見ざるは何等の爲めなるか養蚕家が桑園改良致さざ
る爲め食桑不足にて失敗が有りしにより又蚕具の改良

ば貧民ありての大家にて權利は同權なり、こゝで大小
の區別をなさんには大なる者が貧民に物をくれるには
及ばず田を貸して澤山の仕事有る様にし他へ出さざる
様にすればよろし其貸附の田は力なき物には上田を貸
し大家に於ては右のつまらん五六種植込有りし畑を改
墾して桑園を設ければ三反歩の桑園にて春蚕六拾貫繭
取上夏秋の二期に四拾貫目計百貫目壹ケ年に取入すれ
ば四掛代四百圓取上相叶ふ又大家者に有りては田草取
りに出るは困難なれ共内に居りて養蚕飼は何程致して
も外の者より批難を受くる事無きにより右百貫目の繭
は拾ひ物と同様である右四百圓の金にて米を買入る物
とすれば壹俵代六圓としても六拾六俵以上買入るゝと

を成さざる爲め手入が行きとどかざるにより失敗が多
い其爲め蚕種代價を半金より支拂事相叶さると申し居
りしによりやむをえず蚕種家は少々金を受けてよく年
の種を入る話にかゝる故蚕種貸賣と蚕種の直段の安さ
事に致したるは是皆蚕種家の仕事なり今迄の貸賣を
やめにして現金賣又は代價も正札の如き事にするには
如何すべき乎

蚕種家は乾燥地風通り良き處に桑園を設け早生桑を植
る方宜し早生桑は發芽が早く發芽し葉の開展亦早くし
て日光を受け葉肉はうすくして水分少なく此水分少な
きだけ夫れだけ滋養分を多く保有して居る若出來であ
る故早生桑を作るがよい但し早生桑の施肥はもつばら

前年の秋期に於てして春期發芽前水肥など與へあいやうにする事が必要である肥料は必ず相當に與ふべく斯くの如き桑にて飼育せる蚕兒は體小さく且不揃の如くに見ゆるも舉動活潑にして健全なる發育を遂ぐる四令以後に於ては何れの地桑にても差支へない濕氣多き風の流通悪しく日光のとうしやが不充分なる地に栽培せし桑及實際に栽培せる桑、北面せる山がくの傾斜地に栽培せし桑は蚕種家は與ふべからず尙又切桑の際桑切庖丁に澤山のしぶ、桑葉の汁が附着し、あつぱくして切りたる桑は其まゝとなりて居て手を入て之を擴ぐるも葉とく相密着してよういにはなれぬ様なる桑は稚蚕飼育には最も適せなぬ斯くの如き桑を給與し又は飼

育者が他の飼育者より先きに飼上ると云心にて蚕兒及温度に注意なく蚕兒の食するを待つてしきりに給與するは即ち軟化病になるの源因である
 一蚕室は空氣の流通よき光線のとうしや宜ろしき蚕室に於て可成底温を以て飼育日數少なくとも二十八日以上三十日間位飼育したる者
 二飼育上の手當行届き、栽培後十年以内に砂礫土にて充分施肥せし豊肉なる桑葉を給し飽食せしめし者
 三蚕體のしまり宜しく舉動活潑なる者
 四上簇中の注意宜しく繭の光澤を害するが如きことなき事
 五種繭育としては不適當なる桑と不適當なる飼育法と

を以つてせられたる蛹は頭部は著しく小さきに比して腹部はいたづらにばうだいし居るを以て蛾が繭をよぶりて出づる際其頭の部に依りて押し分けられたる口は小さくこの穴より其ばう大なる腹部をあつぱくして出るを以て其あつぱくの爲めに出蛾の際多量に排尿するを以て比較的多くの出がら口の染まるを見る者である

七二化性蚕兒の種繭育に有りては適當なる食桑と適當なる飼育法とを以てして蛹及繭を得たりとしても其上簇中に、若し蚕室を密閉し空氣のけつばうを來たしたる場合ありとすれば其蚕種は意外の不作を見る者なるにより蚕種買入者は其光澤に最も注意する必要がある

六種繭育として適當なる桑と適當なる飼育法とを以てせられたる蛹は頭部が大きくして腹部が小さなる故に其大なる頭を以て繭を押し出るを以て小なる腹部は事なくだつ出し得らる故出がら口が白く上る故右様の方を以て御飼育有りたし

八二化性蚕種産卵後十一二日早は九日くらいに發生するを恐れて産附の翌朝最も早く検査を受んか爲め箱もしくわかうりに重積してもちはこぶは宜しからず蚕種は其の貯藏が不完全なると蚕卵中のこきゆ作用を害する事は著しく蚕卵を、すいじやくならしめて然も膿病を生ず、蚕種産卵後すくなく共廿時間排水

の固成終る後にあらざれば可成運般せざる方が宜し
九秋蚕種にありては給桑及手入の不足なき様にすべし
飼育中の空氣の不足は給桑の不足よりも甚だしく蚕
種を不良ならしむる者で到底善良なる結果は得られ
ぬ此の注意は蚕兒のみでなく母蛾にありても同一で
ある御注意ありたし然して今後は右述の桑園を設け
蚕種御製造なされれば蚕種賣捌に他へ出張なさざる
共前金を以て注文者がぞくぞく入込むであらう

養蚕家は何に故に失敗する乎

失敗の原因は第一桑の不足蚕具及稚蚕中農事植付の爲
め手入を成さず留守飼が多き爲め温度に不足し充分

病氣を受けし蚕兒を以て四令以後に於て農事植附も相
すみしにより之より養蚕なると外者の山野の何處に
有りたるかわからざる桑を買入れて給桑するにより蚕
兒は此食は食する事相叶ざると申して産座に食をのこ
し置くにもかゝわらず又右之悪しき桑を給桑するによ
り蚕兒の身体色がわるく相成り手ざはりあしく蚕兒は
じいとして。うごかざるにもかゝわらず飼育なし居り
し爲め蚕兒はつかれをこして色々の病蚕となりて出
る者故御注意ありたし尙くわしき事は大正二年度に余
が作りし本誌に有りしにより御拜見の程願ふ今農家が
養蚕をして豊作を見るには如何して宜し乎桑葉不足に
て失敗し蚕種家へも蚕種代金不足がちなるにより良き

蚕種も送らざるとすればこゝで桑園を設くるより外な
し其桑園改良法は第一章に於て述置し通りに御作りな
され壹反歩の桑園を作れば水田三反歩作りたると同様
の利るき上るにより壹ヶ年も早く御作りなされ澤山の
桑葉が出来れば飼育法はまなばざる共外より教師を招
く事相叶ふ桑不足にては自家内を蚕室形に手入する事
不叶蚕買入れる事も教師雇入る事も手をはぶく全芽育
致す事も相叶ざるにより二三ヶ年間は上人を見ずに
白もめんの着物を着して桑を植てもらいたい今急に桑
を植て蚕兒飼育の改良なさざれば三ヶ年後には郡村區
が衰退する様に見ゆるが其際には如何するか事業の方
は昔より改良せずして着類及食事は都會と同様のや

り方なるにより壹家の主人に於ては心配が多い然し其
中から縁組のやり取りの有り様を見るにうざりのみにて
しんのなき物が多い右様のやり方を何ヶ年もつとむれ
ば後にはくびも。まわらぬ様な事に相成によりこゝに
於て一同心一つにして拾ヶ年計畫で壹ヶ年に壹萬貫の
糸を縣へ納と云ふ御決心になりて畑野には外者の田地
にても借受て桑を植へる事に務めてもらいたい桑葉さ
いあらば蚕は子供にても飼れる唯今食桑を作る今日に
ありては區は親子同様に中よくなりて五六戸宛つ壹ヶ
所へ寄合て稚蚕共同飼育を二三眠迄成す事にし其二令
迄飼育せし者の農事植附は共同者に於て第一着に成す
事にすれば心得たる飼育者に於ては一大事を掛て飼育

するにより上結果を得る事間違なしこゝで養蚕家は蚕に桑を洗つて食さす様に務めてもらいたい蚕の桑を洗ふと云は別の事にはあらず桑木のもとへ肥を興へ又桑木のもと土をくわさきにて、やわらげて光線のどうや宜しき様にする事なり右様にすれば桑葉は繁茂してつやを出すにより外菌が附着する共葉つみ取りの際に之をゆすれば外菌は落ちるにより即ち洗ふたも同様のいみなり肥料を興へなき桑葉には外菌が。つらがり居てゆすりても落ちない葉にくのあなに。こまり居り強健なる蚕兒にても之を食すれば病氣にかゝる之よりは右立木桑に密着せし黒赤白のこもんの外菌を竹べらにて、こそぎ取り、かれらだは切取り木のもとに積上有

りし草及色々の雑物を取のけ木のもとを光線のどうしや宜しき様になすべし少々の物にても肥料として興へるにはうづむが宜し尙又蚕飼育するには催青前に我が屋の建築以來掃除致した事のなき屋根うら迄もくまなく掃除をし、暗き處はまどをとりて、あかるくすべし天上板を所々ぬきて空氣の密閉せざる様にすべしねづみのくるを恐れて天上をふさぐは宜しからず蚕兒を衰弱ならしむるにより御注意有りたし

製糸家は何故に心配する乎

製糸家は養蚕家の桑園が一定せざる爲め繭買入の際に

一戸殊に直段を違へねば買入れする事が叶ぬ、さりとて余り落せば賣買六つか敷により如何して宜しき哉と思案しつゝ夕方に於て壹貫目に付貳拾錢見越し買すが爲め心配が多い之れが爲め製糸家が引立ん今此製糸家が繁榮するには如何して宜しい乎一致共同してソウゴ會社と云名儀にて利益配當ある事にし中繭の如きは社員者の自宅の家内に留守かたぐ製造させ主は會社の事務員となりて出る事にし事務員たる者の内二三名は登等工女に向ひ各所の繭を。試験引致させ。熟練を受けて養蚕家に向て飼育法及上簇法の指導出来る技術者に相成りて繭を見れば飼育法及温度上簇法の見分の出来る様な検定人が出来れば會社は益々繁榮す尙

工女に於ては検定人が糸量十分と見たる上工女が十分以上の糸を取りたらは日給の外に取上たる糸量の半額代金は工女へ支給する事にし然して十分が切れたる者に有りては前日の給料にて引さる事にすれば工女も勉強するにより、會社の不利益なる事無き様に思ふ然して直段六つか敷者に有りては引賃にて糸に製造する様にし尙又繭貸込み者へは利益配當をなす事にすれば外者より會社をつぶしてはならんと云ふごみが有るによりまじめに御やりなされば養蚕家及蚕種家共に宜し尙其運びにするには三四反歩の桑園を設けて工女の糞尿及蚕の蛹を肥料とし毎年春期に於て其會社にて春蚕繭の出来る前に繭六七拾貫宛つ取上げ秋期には養蚕家

へ桑を賣る事に致せば壹ヶ年の經費は有るにより心配無き様に思ふ然しそれにしても會長はじめもめんの着物を着て事業大切に守り蛹及工女の糞尿を以て毎年壹反歩宛つ桑園を設け六ヶ年の末には他に出て又一ヶ所製糸所を設けらるゝ様につとめてもらいたい右様にすれば家内は宅に居て子もりかた／＼中商を糸に製糸主は會社に出で日給を取りつゝ事業にあかるく相成りてわらい／＼で郡内に金をふやす事叶ふにより製糸家諸君は此程を察しられて郡内の製糸事業が發達相成る様務られたし

右三事業者之不足が桑園に有る物とすれば如何して宜しか

右三事業者としては、はなれ度とも、はなれられん中なるに、之迄わかれ／＼に事業をなし居りし爲め進歩の今日に於て桑の不足にて三事業者が充分の仕事が出来ざるに於て實に残念今こゝで三事業者が急にすゝんで先へ出るには如何して宜しいか第一桑園の改良唯改良／＼と云のみにては之迄通りなり、之迄郡内に養蚕家が仮に五千戸有る者とすれば一戸あたり三十本宛つと見ても拾五万本の苗木を毎年植附て居る然れ共栽植のやり方が悪しき爲め桑園らしき物が見ゆるにより今

後は秋期耕作法及植附法肥料與へ法植付後の耕作法に附て御指導者を縣より御一名各郡へ御差向被下様に御願致しては如何哉然して各郡に於ては競争心を以て桑園を増す事にし尙各村に於ても石心を以て栽植し秋期に至りて桑園品評會を設け賞を受けし桑園に附て拜見の上一戸ごとに勉強致しなば一定なる桑園が急に出て來る者と余は鑑定す之迄農家は澤山の桑を植附致したれ共栽植地は田の最も肥料少なき惡地に於て栽植し其の畦間には色々の雜穀を作り尙又雜穀を作らざる物に有りては繁茂したる草の中に置き草取の際に濕氣を受けて病氣にかゝり居りし者に力の見わけなしに多料の肥をするにより食すぎにて芽ぶき致したる發根が腐る

が故却つて發育あしきにより未だ肥料が少なきとこそを。ゆいつゝ再び肥しを致すによりつゝには死桑が多いのこりたる者ありても病桑なるにより強健なる桑には相成らん故此當地には改良桑は地味にあわんど申すやからか多い石之次第なるにより指導者あらば何程多忙中にも秋期耕作及もと肥として植附前年の秋澤山の肥料畦取り致したる植附け場所へ與へるにちがひなし尙又植込法及び耕作法肥料與へ法に不足なき者と信す第一章にも述置きしが栽植當時三十日間は蚕兒の一合よりも大切なるにより日やけせぬ様濕かさぬ様に致さなくては後に至りて如何に良くすることも色々の病にかゝりて割合に育つべからず右栽植のあしき爲め壹

ケ年に拾五万の苗木が腐る物とすれば壹本代價壹錢五厘と見ても合計代金貳千貳百五拾圓の大金となるにより此程を察しられて桑園栽植者は御注意ありたし

桑園改良せずに蚕飼育せし爲め壹万戸に對する一ケ年の損害

養蚕家が桑園改良致さる爲め蚕兒に適桑を興へる事は又急につみ取る事相叶はざるを以て雨降の際には蚕兒を桑ばしにする事有り尙又老桑にて外虫の害が多い桑積入の工夫賃になりて利益を得ざる故改良致し度き心有りつゝ今日迄ながれたる原因は左の如し今

仮りに原種三枚宛の掃立する者とすれば壹枚に付毛蚕の内に叮嚀に取扱いて飼育すれば收購は五貫目以上有るにより三枚の蚕種にては拾五貫目收購が上る壹万戸にては原種用三万枚掃立になるにより壹枚に付五貫目とすれば繭貫數拾五万貫上るによりて壹貫目の價額四圓と見ても六拾万圓になる今此繭壹貫目取上るに付て仮りに桑葉が拾四貫宛つ入用の物とすれば拾五万貫取上るには桑量貳百拾万貫今此二百十萬貫の桑を人夫一人にて一日に拾貫目宛つ積入する者とすれば人夫二十一人掛らねばならん此人夫一人の日給が一日に參拾錢宛つとしても六万參千圓になる今之を改良桑園にして人夫一人に付一日に桑葉を三十貫宛つ積入する物と

すれば二百十萬貫の桑を人夫七万人にて積入する事叶ふ人夫十四万人の利益が上る30代四萬貳千圓と云大金が上る尙又改良致さる爲め前述の通り適桑を興へず雨降の際積入桑無き爲め桑ばしにあわせ尙又他より買入たる腐敗桑を興へ外菌の密着したる桑を興へしむる爲めに原種壹枚に付收購五貫目宛つ有りし者が二貫目の不足を生じて平均三貫目に落ちいりしにより原種三万枚の掃立にては收購六萬貫春蚕一期中に不足を見る故に此六萬貫の代價一貫目40代貳拾四萬圓となるにより右桑積入夫十四萬の損害と二口合計貳拾八萬貳千圓桑園改良致さる爲め一期中に損害が有るにより春夏秋の三期にては五拾万圓以上の損害有る者と余は鑑

定す蚕兒は稚蚕中は發育良好にして上簇まぎわに蛆害及びあく桑を食せし爲め死ぬる者により養蚕家が蚕種及び桑代を支拂ふ事は以て養蚕と申せば思案する様なやからが多い今後は桑園栽培法の御指導を願ふては如何哉

町家の者が養蚕を成すには如何すべき乎

大正の今日に於ては町家も養蚕を飼ねば交通便のよくなりし爲め外商人が入込む故に出す事が多くして入る事が少くない故に年々退却する様に見ゆる今こゝで町家は赤い白いの直段争そふ、せりうり事業はやめにし

て、不動の土に桑園を設て蚕を飼ねば町家を繁榮さす事が叶はざる様に思ふ何にならば外商人が其日の給金のみに山野の農家をかけ廻り安直の爲め農家に於ては現金にて之を買入借用の品は町家となるにより右様の有様にては町家は今に衰退する故に今こゝで町家は一戸ごとに外者より土地を借受てなり共一反歩宛つの桑園を設け五人組にて五反歩の桑園があらば二ケ年目には春秋の二期に於ては繭を百貫取上る事叶ふ三四ケ年後に至らば百五十貫目の繭を見る事叶ふにより養蚕を思立ち成されては如何哉品受賣の町家に於ては農家の多忙の際には何町に於ても一町に人の見わたる町多い故にさのみ、らく共をもわずに、ひるやすみの、際に

はながやすみする、やからが多い様に見ゆる今此眠る時間を勘定すれば凡左の如し一戸に附三名家族が有る者どすれば一人が四時間宛つと見ても十二時間になるが故一戸に付一日に人夫一人宛つの損害有り一千戸の町にしては一日に一千人の給金が眠れるわけにて、然して眠る爲め食をこなす事叶はざる故に胃病ををこして一命終る者が多い尙又眠り居りし爲め外者の迷惑する様な事より外に良き事は出来ざるにより此程を察しられて日に一千人の眠費一人に付一日に參拾錢宛つと見ても一千人では參百圓なるにより、費やすも、いかすも町家の働きなる故に養蚕を思立ち成されては如何哉今こゝで町家も農家も養蚕をなさば糸が安直になる

様な事思ひなさる御方もあろうが之等の者に有りては大なる間違なり本縣内に一ケ年にをり物につぶす糸の量が三十六万貫で有て内四万貫より縣内にては製産出来ざる様す故に三十二萬貫の糸を他縣より買入る有様により何に程出来得る共右様の事は心配なき故に今後は桑園を設け五ケ年後には一ケ年に十二萬貫の糸を納めらるゝ様に務められたし

青年諸君は如何なる心を御持になりて宜し乎

學生諸君は充分に出来上りし學校へ入學しつゝ唯吾々

は生れ時期が宜しきが故に右様の學校へ出る事叶ふ之れ果報なりと申す者が多い果報にわちがいなければ標準備よく充分に整ひ得られたる學校へ入りて教育指導の得られるは 明治天皇様のをかげなりと受け二には兩親なりとすれば御恩報じんが爲め入學時代より心掛け毎年紀念として植林をし國に澤山の品を設ける様にすれば 天皇様及兩親に於ては御喜びなるにより此程を察しられて今より心掛て植木を成すが宜し右栽植法は左の如し杉及桐栽植するにしても植附前年の秋なるべく大きな穴をうがちて冬の寒氣に合しむる方が宜し桐木は水氣をさらう者により三尺四方計り穴をうがちて水引をよくするが爲め其穴の中へ石及び木のころ、

しば草等を入れて其上へ土をもちり水平より高さ處に植る方が宜し其植方法は田土に灰としよべんを入れてよくかきまぜて苗木を木くす草及小石等を除きたる土の上に根を廣げて其上へ右の田土を與へ桐の樹木を以て突く様にすれば根は田土に密着するにより枯れる事なし又雨降りが續く共水引が宜し爲め病にかゝる事なし仮りに樹木が四尺有る者とするれば、眞から五六寸さがりたる處の芽を立つるべし其外はかき取るべし右様にして植附年に目的通りの台を作るべし芽が二寸斗伸れば輪なりに畦を取て油かすを二三合與へるが宜し植附の年は風のはげしき時は充分に保護すべし桐木の附近は淺打ちにして時々草を取り除き光線のとうり宜しき様に

すべし又杉に有りては土を和らげんが爲め大き穴をうちがちて其部分の上土を木くす草の類を、交るざる様にし右穴の中へ土をかきこみ然して苗木のねもとへ土を掛て苗の中央を持ってたくく、ゆすれば、ねとねが、どじあつて居る間々も、土が入り込むにより右様に致したる後土を四五寸掛て余り堅くふみつけるは宜しからず温度が、のまする、ちよなるにより光線の通り宜し様になすべし根の表は南の方へ向て植るが宜し青年諸君は植林を熱心にやりなされる様に務てもらいたい、明治天皇様の維新以來世の中の進んだ事は、かするつくせん、教育はふきよする、交通きかんは發達する、縣郡村の農會は起る學校出の技術者が行き渡た

る昔より、こわかつた、雷をかゝり火にも、つかいひきやくにも、つかい、又數百里の遠き所へも、さんじの間に、通行相叶ふ様にし尙又車をまわさせて、色々の仕事を作成しむるによりて一日には我が國にては何百萬人と云人夫賃が上る事に御成し被下、尙又田舎迄も交通便の良き様に御成し被下し爲め維新以前に一石が四圓斗の米が今日に於ては拾五圓もするわけにて繭は米もより、まだ高し、維新以前には外國へ交易せざるにより、繭の善悪もわからん様な有様で有たそうだが今日は糸量十二三分も有る品ならば繭一貫目代五圓もするでありますよ、尙又維新以前には養蚕を成すにも、種油にどうすみをたく様な次第なりしにより農村

民の宅にはたゞみたてぐの入た家及び糸の入たる着物はすくなかりし様子然るに今日に於ては吾等住所の山間迄も交通便良き事に御成し被下、安價なる者が高價に賣れる様に御成し被下しにもかゝらず、都會は繁榮して、農村が衰退すると申す者有るが、之大なる間違なり、之等の者に有りては、都會のきれいなるを見て、繁榮する様に思ひなされるであらう、交通便良き様になる程、都會は衰退して農村民が、繁榮するわけである、故に吾々が繁榮する時代に向かつたとすれば、是迄壹圓の價格より産物の上がらなかりし、土地より拾圓の價格なる産物を取上げなくては恩帥 明治天皇様に、申譯がたゝんと云ふ御心に御成りなされて今後

は外者の畑野にても、借受け桑園を設けて一ヶ年に三
 四期宛つ蚕飼育し五六ヶ年後には一ヶ年に十二萬貫の
 糸を製産し本縣へ納める様務めてもらいたい、右様に
 すれば縣郡に金が澤山と相成る故に東京の都會から、
 わざ／＼北國の大野迄むかいに参りし、ごくらくの電
 車の舟にのりて都會のごくらくを、家ぞく一同が、か
 わりがわりに、見物する事叶ふ然るに残念ながら世の
 中の進歩するのに眠り居りし爲め、むかいにこられし
 電車の舟にのりて、ごくらく會の、都會を見る事がで
 きんでは、ありませんか、右様の通り此度死する際
 かくの如き有様ならば如何すべき乎

第二章

蚕種保護法及洗滌法貯藏法

此法三種共大正二年度に田邊先生の講話記念として余
 が作りし本誌に述置きしにより右本誌を御拜見被下夏
 秋蚕生種洗滌法は産卵後五日未に於て右春蚕洗滌法と
 同様に洗滌すべし

蚕飼育準備之標準表

養蚕家は蚕飼育の際には圖雜致さる様、秋冬春の内

に充分準備を整ひをかすば蚕飼育の際、混雜する爲め
 手廻り兼ねるにより失敗に落ゆる事有り今後は秋冬春
 の内充分に準備御整ひの程願ふ、養蚕家は夏冬なしに
 蚕飼育する御心にならでは、飼育の際に非常なる苦心
 をせねばならん故、盛大の事業に飽がきます此程を察
 しられて御注意ありたし

一 三眠前の稚蚕用桑には前年の秋期に於て肥料を澤山
 與へ春期には與へられざる事

二 養蚕家としては冬の内に蒔及繩網及上簇よせ及も
 みぬか等も篩にかけて、ちり及わらくすを、とつて
 之を春日の天日にさらして濕けん所のけむりのなき
 處にたくわるをくべし、よせ等も右様に取扱ふべし

蒔及繩網は雪又は水にさらして、わらのあくぬき
 をし、よくそゞぎて乾きたる後は濕氣なき、けむり
 及び、にをい氣なき處に、たくわをくべし
 三 春は第一ちやくに桑園の土をたがやして、光線のと
 うしや宣しき様になし蚕兒の四令以後に與へる桑に
 は肥料を與ふべし稚蚕用の桑園は唯土をたがやすの
 みにて宜し

四 繭十貫目取に入用の蚕具調

蚕籠五十枚にて宜しけれ共、よびがなくては飼育し
 がたき故、七十枚、蒔七十枚掃立紙よび共に四枚、
 掃立羽根一本、籠台二丁、毛蚕網十二枚、二令迄は
 半網でなくては産座一枚を一枚半に廣げるときに仕

事しがたし、一分目半網二十四枚、二分目一枚掛二
十四枚、三分目三十枚、四分目六十枚、細網百枚あ
らば充分なり

五催青前に我が家建築以來掃除成したる事なき、やね
うら迄も掃除し器具は申す迄もなし、家ざわに立木
有らば切拂ふべし、くらし處はかべをやぶりて障子
を入れるべし天上はあたまたのかるくなる様に空気を
設けるべし、障子の古きは全部はりかへ目ばりをし
蚕たなをくみ立て、蚕具を室内へ入れて百度斗の温
度を以て、之れを乾かすべし、火の元をつゝしむば
云迄もなし、乾きたらば蚕具を取出して、掃除をし
て蚕種を室にうつして催青にかゝるなり

し

七一、二令中は斬桑育の方が宜し然れ共晴天にて空
の乾く日にありては二令よりは蚕體を見て、盛食期
には大形に切りたる桑、若くは丸葉のまゝ給與致し
ても差支なし、三令は右と同じ、四令にならば三眠
起出し際、三回はさそうとして、以後は全芽育にて
宜し、然れ共四眠眠附と起ぎむとには、さそうにて
以後はゆだ桑にて事たれり、上簇まぎはに於て、一
二回葉桑を大形に切て與ふが宜し

六春 蚕催青法及掃立法は第二章にて述し通り、大正
二年度に作りし本誌に有りしにより、夏秋蚕催青法
を記載す、夏秋蚕種冷氣の爲め、十五日以上を要し
て、發生する様な事あるは宜しからず、故に冷氣の
際は火力を用ひて、其發生をうながし七十四五度の
温度を、たまたしめて、なるべく早く、發生せしむる
様に、手當をするが肝要である然れ共八十五度以上
九十度にならば、産座に青草を廣げて、其上に蚕種
をならべて、濕氣を補ふべし、又明日發生致すと思
はれ、掃立紙の上へおせて、毛蚕のはい出る事相叶
ざる様に、あわぬかを以て、種紙のそとに、ごいを
つくべし、然して夏秋蚕は午前十時前に掃立成すべ

全芽育の養育法

余は全芽育が致し度と思ひ全芽蚕あみ出したる長野縣
下伊那の木下富帥の方へ二度出張致したりしに右者の
桑園は全芽育適用桑園にて、早生、中生、晩生三種の
桑が、しごく。密植にして、一反歩に付八千本以上、
栽植し有りしにより、蚕兒に適桑を與へる事叶ふ全芽
育にても豊作を見ゆる、今吾々が話を聞て右様の飼育
致しなば、蚕兒にはちと、やわらかなかいと、御は
んど三種の物を與ふるので、同一により、蚕兒か不揃
になり又は病蚕が多くなりて、繭を作らず、作りし繭
に有りては、糸にこしようが多くして、交易品になり

がたし、少々のはじかき桑園も出る芽をかき取が爲め、遂には全めつ致す事あるにより、栽植中は御見合せの方宜し、今右育に成さんとせんには、桑園畦巾五尺にし、當地は雪國の事故、秋期まき立の際に、つごう宜しき様に、一尺五寸ないし二尺として、二畦を取り、夫婦桑園を設け、早生、中生、晩生の三種の桑を植るが宜し、然れ共當地は濕氣の多き土地なるにより、その育を心得ざる者が、飼育なせば火力の爲め、じょうねつを、をこして、之が爲め、五ヶ年間の内三ヶ年は失敗を受る故、御注意ありたし

飼育中の温度火の力の効力

此法は前述通り大正二年度の本誌にあれ共たいてい、春蚕に有りては、七十二三度が、適温度にて、夏秋蚕に有りては、七拾五度以上七拾八度迄の者が、適温度す、春蚕にて、七十二三度と云は、外度より室内温度か、十五度ないし廿度をこさざる様に、注意致したるけつか、一度の眠起の間に於て、六十三四度の、こともあり、七十八九度の事も有り、外度にならうて、表を作りしけつか、合計何百何十度の物を、何日間に割て、七十度又は七十二三度になりたと云わけなり、之れ夜もひるも七十一二度にて、飼育せし様に聞受し、養

軟化病の原因は何になる乎

風の流通悪しく、日光のとうしや、不充分なる地に、栽培せる桑、家ぎわに栽培せる桑、北面せるけいしや地に栽培せる桑、を以て稚蚕飼育する者に有りては、蚕體は著しくぼう大し、蚕體の光澤も、やゝ水色ををふ、蚕體何れも揃て、甲乙なく、強建さうに、見ゆるも、元來水分多く、滋養分少なき桑葉なるを以て蚕兒は衰弱にをちり、如何に手あてをなすも、三令若くわ四令に於て、必らず軟化病を取出すなり、軟化病とは、あたますき、はらくだし、すべて死體の軟らかなる者なり、蚕は何處の桑にても、飼育する事叶ふ

蚕家が有るがそれにしては飼育者が務まらざるにより夜は産座のよく乾く様にし、午後十一時に空氣の交替し、蚕兒の力を見斗ひ、給桑をますが宜し、夏秋蚕に有ても、夜はよく乾くようになし、置きて、ひる一回に桑の目方一貫給興致したる物ならば、夜は一貫五百目給興するが宜し、いずれも蚕兒の力を、見わけけるべし、又夏秋蚕に有りては、八十度以上九十度に、のぼらば、なるべく、すゞしくし、水分少なき桑には、四令後には清き水を、きりふき又はじよるにて、さんぶして興ふべし

火の力効力は、大正二年に作りし本誌に有しにより御拜見有りたし

なれ共、飼育者が、蚕兒の力を見斗らはずにより失敗す、余り蚕室より、はなれずに、他の養蚕家と、せりあいの心を持ち、又はじまん心を持って蚕を愆くに飼育は、軟化病にかゝる故、御注意ありたし、硬き桑と言ふても、成長せる桑葉の中の軟らかき桑で、かたき桑の内の最も軟き者が宜し、夏秋蚕に有ても、稚蚕中の桑は蚕兒の發生當時に、水肥を興へたる桑は、宜しからず、然れ共四令以後にありては、肥料桑でなくては、膿病及軟化病ををこす者なり、故に、やわし、こわしの、しんしやくわ、蚕兒にならうが宜し、蚕室内はきれいにしして、しめり氣なき、蚕室にてよされた蚕具を、もちね様、時々たき火を用いて、空氣の入替

をなし、夏秋蚕に有りては、夜雨戸を所々あけて、すの如き物をつるして、まわし風にて、蚕室内へ入る様にし、一日に二度宛つ、じよしやをなし、きりのかよりし桑、及ふはいせし桑を興へぬ様、春蚕ならば、かわかせやゝかわかさずに、夏秋蚕ならばしかせやゝしかさずに、此法をせん一として、桑の注意を致したならば、養蚕の間違なき物なり、尙注意すべきは當地は濕氣多き地により、蚕兒眠附の際、溫度にて乾かすには、蒸熱の氣が多い故、わらのあくぬきしたる物を、他の一方の籠に、一わ宛つ廣げ、其上へ網を以て、うつすなり、右様にすれば、空氣の流通も宜し尙又あくぬきのわらなる故、濕氣をすい取るにより、急

にかわき上るなり、四令の眠付には、蚕兒が澤山なる故に、繩網をしくが宜し

上簇法及 上簇後の注意

此法に有りては大正二年に作りし本誌に述置しにより記すべき事無き故、右本誌を御拜見被下、上簇室は溫度のたもつ様、あくきのこもらざる様、催青前に上簇の際にわずかの手入にて、充分に、かこいの出來ざる様、準備をなしをき、然して簇の下へ繩網若くは、蘭網をしくべし蚕兒が、ふんしよべんをなし、をわるを見て、他の蕙のなき、からかこにうつして、ふんしようべ

んにて、ぬれ込し蕙を、室内より取のければ、室内にはあくき無きにより、乾きも宜し、にをい氣も天上をあけてありし爲め、こもらざるにより、蚕兒が、はばをひくごとに、糸がかわくが故、繭のたゞざる處にても、糸量澤山とれる様に、相成る故に、御注意ありたし尙又上簇溫度は七十六七度が適温なれ共、當地は濕氣多くて、養蚕家が、まだようちなる爲め、病蚕を多く作る、之が爲め虫害が多し余が調査するに、一頭の蚕兒の中にて、二頭ないし四頭斗見る事有し故、蚕兒の内は、豊作を見たりと思ふ共、二百十日の虫害風にやられて遂に失敗に落入る、虫害の爲め、養蚕家の、苦しむ事は、多大なる者なり、故に、養蚕家は、春蚕

上簇まぎわに、しりをほそめて、見ぐるしき、蚕兒が見ゆれば、桑色持たる細蚕だけ、より取て、簇中へ入れて、八十二三度の温度にて、急に繭を作らせるべし
 低温ならば、がわだけ作りて、造作せざるにより中繭が多い御注意ありたし、故に、上簇の際には、右虫害にかゝりし、死蚕が多く有るにより、之等の者は、一頭も外へ、捨すに石灰水に、したすか又は煮へ湯をかけるか、如何してなり共、此虫害を、にがさいる様御注意の程が願たい、一頭の虫害が、翌年の春に蝶になりて出る、其ちよくとへんげたる者が、一頭にて五六千の卵を、うひと申さるゝにより、此五六千の者を蚕兒が食する者とすれば、一頭の虫害をにがした爲め

繭二貫目國になくなる事故、之を代價に見つもれば、四圓と見ても八圓となる大金の損害になるにより、御注意ありたし、右外虫の爲め、養蚕家が失敗を受くるは、桑園改良致さる爲めなるにより、今後は注意致し、桑園栽植の程を願ふ、今後はもろくの、ぞうぎようをなげすてて、一信に縣のおうせにそむかずに、桑を植れば、ふかしぎのがんりきとして、土地の方より、をうじようわ、じじようど良き桑をゑせしめたまふ其桑にて一念心を以て、蚕を飼ば、豊作を見る事相叶ふ、其上は縣のおうせが有りたればこそと、喜ぶ斗なりあなかしこく

(終り)

大正四年四月十三日印刷
 大正四年四月十八日發行

定價 貳拾五錢

著作兼發行人 山本與三 八

印刷人 福井市佐佳枝上町百四拾三番地 山本浩

印刷所 全市全町全番地 山本活版所

177
181

終

